

競 技 注 意 事 項

1. 本大会に適用する競技規則は、2015年度(公)日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項により実施する。
2. 練習は指定された練習会場を使用する。その他審判員・競技役員の指示に従うこと。
3. 競技者の招集について
 - (1) 招集場所は競技場第2ゲート外に設ける。
 - (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてプログラムの競技日程記載通りとする。
 - (3) 招集方法
 - ア. 競技者は、競技者招集所付近の掲示板に貼り出された出場競技者一覧表にチェックする。(○で囲む) なお、リレー競技はオーダーの提出をもってチェックとする。また、該当競技を棄権する場合は、事前に競技者係に申し出ること。
 - イ. 競技者は、出場種目の招集開始時刻には招集所に集合する。プログラム記載の招集開始時刻より点呼を始め、招集終了時刻には各競技場所への移動を開始する。
 - ウ. 招集場所での点呼に不在だった競技者については、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
 - エ. 他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨競技者係に申し出て出場を確認する。
4. 競技場への入退場について
 - (1) 競技場への入場は、係員の誘導に従い規律ある行動をすること。競技者以外はトラック、フィールドに立ち入ることはできない。
 - (2) トラック競技者は、決勝線に到着後、腰ゼッケンを返却し選手出入口を通り退場する。
 - (3) フィールド競技者の退場については、当該競技役員・マーシャルの指示に従う。
5. ナンバーカードについて
 - (1) ナンバーカードは、交付された大きさのまま使用し、必ずユニフォームの胸背に確実に付けること。ただし、跳躍競技については、胸・背のいずれかでよい。
 - (2) トラック競技出場者は、腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツ右側後方に付けること。男女4×400mリレーには、2・3走はパンツ両側、4走はパンツ右側後方に付けること。
 - (3) 3000m以上のトラック競技は、レーンナンバーカード(胸・背・腰)を使用する。
6. 走路順・競技順について
 - (1) トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載どおりとする。
 - (2) 準決勝以降のトラック競技の組み合わせ及び走路順、フィールド競技の試技順については、番組編成員により厳正に抽選し、決定する。
 - (3) 800m以下の距離のトラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者ができたときは写真判定を拡大し、細部まで読み取り着差を判定する。判定が不可能な場合は、本人か代理人によって抽選する。また、リレーを除く800m以上の競技の同タイムは次のラウンドに進出させる。ただし、800mで、対象選手が使用可能レーンを上回った場合、スタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。
7. 競技について
 - (1) 本大会のトラック種目のスタートは、イングリッシュコマンドで行う。不正スタートは1回目で失格とするが、スタート時の不適切行為には、警告が与えられる。同一選手が2回の警告を受けると失格となる。
 - (2) 事故防止のため、短距離競技ではフィニッシュライン通過後も、自分のレーンを走ること。
 - (3) 男女の競歩競技においては、制限時間を設け、それを超えた場合は競技を中止させる。(男子35分 女子45分)
 - (4) リレーのオーダーの提出は、予選・準決勝・決勝とも1組目の招集完了時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。
なお、2日目の男女4×100mR準決勝のオーダー用紙は、1日目の17:45まで、大会本部において、トラック総務員が受け付ける。
 - (5) タイムレースの種目は、タイム順に組分けする。
 - (6) 三段跳の踏切板は男子11m、女子9m地点に設置する。
8. バーの上げ方について
 - (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	練習	1	2	3	
男子走高跳	予選	1 m75	1 m78	1 m81	
	決勝	1 m78	1 m81	1 m84	以上3cmきざみ
女子走高跳	予選	1 m43	1 m46	1 m49	
	決勝	1 m46	1 m49	1 m52	以上3cmきざみ
男子棒高跳	決勝	3 m40	3 m50	3 m60	以上10cmきざみ

- (2)最後の一人になるまで棒高跳では10cm刻みとする。
- (3)走高跳・棒高跳で第1位を決める場合のバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。
- (4)女子棒高跳の練習の高さ、1回目の高さ、及び、バーの上げ方については、参加選手の状況により協議し、決定する。

9. 予選通過記録

	走高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	1m81	6m35	12m80	11m10	30m50	35m00	47m50
女子	1m49	5m10		9m00	27m50		32m80

※上記の記録は、天候その他の条件により変更することもある。

10. 競技に使用する用器具は、棒高跳用ボール以外、すべて主催者が用意したものを使用する。ただし、やりは検定を受けて合格したものを使用できる。検定は招集所で実施する。その際、「やり検査申請書」とやりを持参する。検査に合格したやりは「預かり証」を発行のうえ一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。借り上げた用器具は、各競技終了後、競技役員が招集所で返却する。
検査時間
第1日目 女子やり投げ 予選 7:45～8:30 ※1組2組とも
決勝 13:00～13:30
第2日目 男子やり投げ 予選 8:15～9:00 ※1組2組とも
決勝 13:00～13:30
11. スパイクは11本以内、長さは9mmを超えてはならない。走高跳・やり投の場合、12mmを超えてはならない。
12. オープン種目以外のフィールド競技の決勝において、競技進行に支障のない範囲で可能と判断された場合、試技前に選手の紹介を行う。
13. 各種目3位までの入賞者は表彰を行うので、係員の指示により表彰場所へ移動する。4～8位の賞状は本部ホールで受け取る。
14. ケガや体調不良に関しては、応急処置のみ医務室にて行う。
15. 助力、通信機器の持ち込みについて
 - (1) 競技場内での助力は禁止とする。監督、コーチがフィールド競技中に選手を呼び寄せて助言する場合はコーチ席で行う。その時、選手に映像等を見せることはできるが、機器等を手渡すことはできない。
 - (2) 選手は、競技場所にミュージックプレーヤー、携帯電話等の通信機器、映像機器を持ち込むことはできない。
 - (3) 競技者以外は、トラック、フィールド及び、その周辺の立ち入り禁止区域に入らない。また、選手、付き添いは、メインスタンド前を通行しない。
16. 練習および競技場の使用について
 - (1) 練習は、競技場周辺の芝生広場で行う。ただし、器具を持ち込んでの練習はできない。バックストレート側の開放時は、マーシャルの指示に従って練習を行う。
尚、大会前日は本競技場のみとする。
 - (2) 投擲練習は、円盤投、やり投のみとし、大会前日については練習割り当て時間に従って行う。
試合当日の練習は、当日実施の円盤投、やり投種目のみとする。
砲丸投については、プール駐車場横の砲丸投練習場にて7:00～18:00まで練習可能である。
ハンマー投の練習はできない。
 - (3) テントの設置は、16日(水)の開門以降とする。競技場内のテントについては、大会期間中設置したままでよいが、必ず折りたたむこと。尚、メインスタンド横の芝生部分の設置は認めない。
 - (4) ゴミはゴミステーションを正面広場付近に設置するので、各校で責任をもって処理すること。
 - (5) 本競技場は競技終了後18:00まで使用可能である。